

「ものさしを問う」

橘 秀憲

謹んで新春のお慶びを申し上げます。本年も何卒よろしく願いいたします。

昨年は「眼をひらく 心をひらく」のテーマのもと、教区御遠忌法要を笠松・竹鼻・岐阜の三別院を会場に、教区内御寺院御門徒はじめ有縁の方々のご協力により厳修できましたこと厚く御礼申し上げます。

岐阜別院で行っている仏教公開講座の中で、先生からお内仏についてのお話があり、日ごろの生活がいかに曇った眼で生きているか、暮らしているかということを読み当てられました。そういう生活から気づきを与えてくださる空間がお内仏のある場であり、先輩たちがそういう場を設けてくださったということだと。現在生活様式や家の造り・設計も時代の流れで変わってきていまして、最近の家にはお内仏を置くスペースさえない状況です。最近ではお内仏があってもそこは「お寺様の場所」という風に思っている人がいると話されていました。月参り・お常飯にお寺様が来てお勤めをしていく場所と捉えているということ、ご自身で朝夕の勤行をするという生活がないということでしょう。ご本尊の前に身を据えるということから自分を見つめるということが始まり、気づきを与えてくださるということでしょう。

健康第一・家内安全・無病息災を祈らずにはおれない私の姿に気づかされること、すなわち自分と他者に眼がひらかれ、心がひらかれていくということなのでしょう。それが到達点ではなく、常に進行形ではないかと思えますし、気づきの場を与えてくれるのがお内仏・ご本尊のある場であり、聞法の間や同朋会の間であると思えます。昔は分家する時や離れていく身内の方に家長が必ずご本尊を準備していたと聞きます。現在は家のつくりにも合わせて三つ折形式のご本尊やコンパクトなタイプのお仏壇も準備されておりますので、是非お内仏のある生活を有縁の方にお勧めいただきたいと思えます。

法語に「私のものさしで問うのではなく、私のものさしを問うのです」という言葉があります。私のものさしとは自分が一番正しいということですし、自分の生きてきたこれまでの経験や学んできたものが創り上げるものなのでしょう。自分のものさしを振りかざすのは、確かに人生を歩む上で大切なことですが、自分のものさしを問う姿勢、そういう謙虚さが今一度必要だということだと思えます。またお寺の掲示板に「自分の言っていることが絶対正しいと思っているときが一番危ないのです」という言葉が張ってあったという記事がありました。これも自分を振り返ることなく、見つめ直すことなく歩む姿を読み当てているのだと思えますし、それぞれのものさしを再吟味する必要があるという促しだと思えます。昨年12月選挙という形で国民の信を問うたということですが、本当に今なすべきことが問われたのかは甚だ疑問です。将来未来を見つめた今をどう生きるかをご本尊の前に常に身を置き私のものさしを問う生活が願われます。今を積み重ねて成り立っている人生、過去の今によって現在があり、現在の今は未来をつくる、だから今を大切に。